

MAST

Mikawa Akabane Shizuoka Toyohashi

岡崎教区広報誌

2025年9月

第14号

発行所／真宗大谷派岡崎教務所

発行人／錦 秀見

編集／教区教化委員会メディア部会

印刷／プラザー印刷株式会社

能登半島地震災害ボランティア報告

「十王図」絵解き

てら活（お寺の活動紹介）

岡崎教区青少幼年教化通信



能登半島地震災害ボランティア報告



岡崎教区から能登半島地震の災害ボランティアとして2025年4月30日～5月2日の3日間行きましたので、報告します。参加者は所員1名を含めた9名で、昨年も参加した6名と初めて参加する3名です。

今回のボランティアの主な作業は、輪島市の被災寺院にある本堂内仏具をコンテナ倉庫に運ぶ作業です。

この被災寺院は、お庫裡などの建物は被害が大きかったため既に撤去され、本堂のみが残っていました。その本堂も屋根の一部が崩れており、正面大階段も被害が大きいため入ることができず、お庫裡とつながっていた場所にハシゴをかけて本堂に上がるしかありませんでした。

お庫裡が建っていた場所に設置されたコンテナ倉庫（被災任職が購入）に本堂の（須弥壇以外の）全ての仏具や建具を運び入れました。

被災から1年4ヶ月経過しているため、仏具は埃を被っており、壊れているものもありましたが、できるかぎり丁寧に扱いつながりの作業は使いました。

作業終了後、記念写真を撮った際、被災寺院の住職が「心が折れかけている。

せっかく大変な作業をしてくれたけど、お寺としてどうなるかは何とも…」という言葉が、今回の3日間で一番心に残っています。

このボランティア作業以外にも、能登島や輪島市の被災寺院へ訪問し、被災状況を視察したり、お話を伺いました。さらに、拠点となる能登教務所（ボランティア支援センター）での朝のお勤めの後には、能登教区出身の竹原教務所長からも貴重な話を伺う事ができました。真宗大谷派ボランティア支援センターのホームページ内、『現場の声』は見やすく作ってありますので、一度見て頂けたらと思います。

私が聞いた現在の被災地の状況を少し書きます。この4月に全ての避難所が閉鎖し、仮設住宅や



能登教務所長にもお話を伺いました



視察した輪島市内の被災寺院

賃貸住宅、公営住宅に移りました。そして誰も受け入れる無料の炊き出しは終了しました。

この5月までで住居等の公費解体の申請が終了しました。自宅が半壊だけど住んでいる方は難しい判断を迫られているそうです。

他にも色々お聞きしましたが、現地での話や報道を見ると、東海地方におけるこの災害の追加報道の少なさを実感しました。

私は今年も参加して良かったと感じていますし、また行きたいと思っています。初めて参加した方も来て良かったと言っていました。もっと、個人的に感じたこと、書きたかった事はたくさんありますが、あえて、簡単なレポートにしました。このレポートを読んで頂いた皆さんもぜひ、一度現地に足を運び、現地の状況を生で見て、人との交流をしながら、被災地を感じて頂けたらと思います。



真宗大谷派
ボランティア支援センター
『現場の声』

「能登半島地震災害ボランティア」写真レポート

2025年4月30日～5月2日に行いました能登半島地震災害ボランティアの様子を掲載いたします。



作業をした寺院の外観



本堂の仏具を移動させました



仏具はコンテナに収納



「十王図」絵解き



第16組 本證寺
おやま ころえん
小山 興円

住所：安城市野寺町野寺
26番地

古代インドでは、命は輪廻転生すると考えられていました。誕生の瞬間が「生有」生きている期間が「本有」死の瞬間が「死有」死んでから次の生を得るまでの期間を「中有（中陰）」と呼び、満中陰とは、この中陰が満了する四十九日目となります。

この中有と道教の思想が混ざり、九世紀には『十王經』という偽経が成立します。その中で、死者は七日ごと、百ヶ日、一周忌、三回忌に十王の審判を受け、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上の六道のいずれかを決定されると説きます。その様子を描いたのがこの十王図です。

逆修を行えば罪の軽減がなされるという信仰に基づき、鎌倉時代以降盛んに描かれ、多くは忿怒形の十王と、その前に引き出される罪人の地獄の責め苦が中心に描かれます。

居並ぶ十王の中で一番有名なのが閻魔王。まず

閻魔帳に記載された行状を糾します。いくら嘘をついても浄玻璃鏡ですべて暴かれ、地獄行きは免れません。そこで、遺族が審判の日に、被告人支援のために情状酌量を願うというのが七日ごとの中陰法要になります。

阿弥陀さまは、この私を救うために、救いの対象である私を事細かに見尽くされました。その私の調査結果は、絶望的なものでした。

「善いことをしても成果を自慢し、認められなければ腹を立て、朝から晩まで損得計算ばかり。」

十王の判決は、間違いなく「地獄」。どれほど遺族が応援（追善供養）をしても、救われることは絶対にありえません。そんな救われたい私を救う方法を、阿弥陀さまはとてつもない長い時間考え抜かれました（五劫思惟）。

そして、地獄へ墮ちるしかない私の罪や煩惱をそのまま、逆に浄土へ生まれるエネルギーに転換させるという「南無阿弥陀仏」を成就させて、この私に届けて下さったのです。

そのお心をその



▲ 十王図（本證寺所蔵）

まま聞いてお念仏する者には、中陰の審判は無縁です。追善供養も意味がありません。

先立たれた方は、阿弥陀さまの浄土へ往生され、私を導くはたらきとして、私が地獄に迷わないように心配して下さいます。

中陰法要は「本来ならば十王に裁かれている日々であった。もし今、自分が審判に臨んだら、どんな判決が出るだろう。」と自分の有様を尋ね、亡き方が「お念仏にあつておくれ」と命がけでご用意くださった尊いご縁と受け止めたものです。



子ども食堂 ～お寺を地域の居場所に～

第14組 さいこうじ 西光寺 きよさわ 清澤 かずね 和音
住所：碧南市浅間町4丁目3番地

もやいこ食堂は、2021年10月にスタートした地域の子ども食堂です。始めるきっかけは、ある子育て世代のお母さんでした。新型コロナウイルスによって地域のイベントが次々と中止される中で、「子ども食堂をやってみよう」という想いを語ってくれたのです。その声を受け、西光寺を会場として開放し、「もやいこ食堂」が誕生しました。

「もやいこ」とは三河地方の方言で「分け合う」「共有する」という意味です。

子ども食堂といえば、子どもの貧困対策というイメージがあると思いますが、必ずしもそうではありません。現代は、経済的貧困に加えて、経験的貧困、関係性の貧困の三つの貧困があると言われていきます。これらの課題にアプローチする目的で取り組んでいます。始まった当初は約30人でし

たが、今では乳幼児から高齢者まで100世帯ほどが参加するあたかな集まりへと育っています。遠くは刈谷や安城から参加する方もいます。毎回、子どもたちの笑顔と元気な声があふれ、地域の大人たちとの交流の輪も広がっています。

活動内容は、フードパントリー（食材配布）、遊び場、学習支援、食事提供（持ち帰り）です。時々お寺でランチをすることもあります。夏は流しそうめん、冬は餅つき大会などのイベントも行っています。また、そば打ちや工作を教えたりと申し出てくれる人もいて、体験機会を提供することもできています。このように支援の輪も広がっています。

その根底に流れる「誰一人取り残さない社会」という理念は、「摂取不捨」と通ずるところがあると思います。



子ども食堂を始めたことで、これまでお寺にご縁がなかった若い世代に足を運んでもらえるようになり、子ども報恩講や夏休みの行事にも参加し、参加者のあるおばあさんが、毎回始まる前にゆったりと仏さまの前に座って手を合わせたりしゃやいます。子どもたちにとってはそのような姿を自然に目にする機会でもあるようです。

もやいこ食堂は、ただ食事を提供するだけでなく、子どもも大人も「誰かにつながる」場所。「ひとりじゃない」と感じられる、そんな居場所づくりをこれからも大切に取り組んでいきたいと思っています。



流しそうめん



食事提供の準備



餅つき大会

岡崎教区 青少年教化通信



六ツ美組 本光寺
稲前 恵文 (1967年生まれ)
住所：岡崎市上青野町字新井1番地

六ツ美組本光寺さんの青少年教化の取り組みについて、住職の稲前恵文さんにお話を伺いました。

―子ども会はいつからされているのですか？

現在の形は2016年4月からです。30年ほど前までは定期的に先代住職と行っていました。その後私が住職となってからは花まつりだけになっていました。

しかし、私が町内の子ども会の役員になったことを機に、以前のように毎月お寺に子どもたちが集まって一緒に参りしたり、遊んだりする活動をしたいなあと感じ、再開しました。

―会の内容はどのようなものでしょうか？

基本的には毎月1回、日曜日の午前に1時間程度行っています。正信偈のおつとめと仏さまのお話をし、その後室内や境内でゲームをしたり腕輪念珠や缶バッジを作ったりします。

夏休みはラジオ体操と学校の宿題、11月には報恩講、3月には6年生を送る会と新1年生を迎える会、4月には花まつりを開いています。人を頼んで紙芝居や大道芸、手品などをしてもらうこともあります。

―参加募集はどのようにしていますか？

始めて何年間かは坊守と2人で通学路に立って手渡しでチラシを配っていましたが、現在は参加者に直接渡しています。学校の友だちを誘ってくれるの

で、町外の子も来てくれます。おおよそ20〜30人の参加で、時には中学生の子も来ています。

―毎月やっているのはすごいんですね。

私の一番下の子が小学校を卒業する時に、参加している下級生の子たちに「来年からも子ども会はある？無くなっちゃう？」と心配そうに聞かれて、あらためて楽しみにしてくれていることに気づかされる。と同時にとても嬉しかったです。もちろん、その後もずっと続けています。続けられるのは、私と坊守が子どもたちとの時間を楽しんでいることが大きいのかもしれません。義務的になってしまつと継続が難しくなるように思います。

コロナ以後、町内の子ども会の活動が縮小され、子どもが集まる場が減っています。でも、自分がかつてそうであったように、子ども達は友だちと遊びたいという気持ちをもっています。お寺は地域の人から認知され、親しまれてきた場所ですから、その気になれば形はいろいろでも地域の子どもが集う場は開いていけるのではないのでしょうか。来てくれる子がいる限り今後も子ども会を続けていきたいと思っています。

〈岡崎教区青少年教化通信について〉

このページは教区教化委員会の青少年教化部会に協力いただいています。部会は、活動の環として寺院での青少年教化の取り組みを取材しており、「岡崎教区青少年教化通信」は、その内容をまとめたものです。今後さまざまな活動事例を紹介してまいります。

《「子ども会相談室」について》

教区教化委員会の青少年教化部会は、教区内寺院の子ども会設立・充実に支援する「子ども会相談室」という事業を行っております。「子ども会を始めたい」「子ども会について相談したい」という寺院を随時募集しておりますので、ご興味のある方は教務所までご一報ください。



空き缶積み上げゲーム



6年生を送る会



ラジオ体操



正信偈のおつとめ

みんなの掲示板 おいでんみりん

日 日時 会 会場 講 講師 内 内容 テ テーマ 持 持ち物 費 参加費 対 対象 問 問合せ

団体

同朋の会を推進する会

「親鸞教室」

日 ① 9月19日(金) ② 10月17日(金)

③ 11月20日(木) ④ 12月23日(火)

13時30分～15時30分

講 上野 瞭氏(第2組専光寺)

テ 『仏説観無量寿経』を読む

費 3,000円(年間)

持 『真宗聖典』

会 岡崎教務所

☎ 0564-2212136

声明研究会

「講習会」

日 9月5日(金) 14時～16時

内 正信偈(真)・五洵・和讃・回向

会 岡崎教務所

日 9月17日(水) 14時～16時

内 伽陀二章・文類偈(草)・五洵・和讃

会 岡崎教務所

日 10月10日(金) 14時～16時

内 装束・出退作法

会 三河別院

講 岡崎教区准堂衆会(全)

費 3,000円(年間)

持 『真宗大谷派声明集』、

『大谷声明集上』等

問 岡崎教務所

☎ 0564-2212136

地域

三河地域教化センター

「真宗の葬儀―葬儀・死・儀式―について」

日 9月11日(木) 14時～16時

講 鬼頭 武志氏(本廟部堂衆)

テ 葬儀のお勤め

費 500円

持 『真宗大谷派声明集』、

または『大谷声明集』

会 三河別院

☎ 0564-2110625

赤羽地域教化センター

「儀式作法研鑽会」

日 ① 9月27日(土)

② 10月9日(木)

17時～18時

講 織田 顕慶氏(第8組宿縁寺)

内 報恩講 お勤め

費 無料

持 『真宗大谷派声明集』

会 赤羽別院

☎ 0563-72123008

東三河地域教化センター

「聖教学習会 歎異抄に聞く」

日 9月30日(火) 14時～16時

講 平原 晃宗氏(大谷中・高等学校 宗教科講師、京都教区正蓮寺)

テ 歎異抄第14条②

費 500円

持 『真宗聖典』、念珠、間衣(有僧籍者)

会 豊橋別院

☎ 0532152150833

「市民公開講座」

日 10月4日(土) 13時～

講 安田 菜津紀氏(フォトジャーナリスト、認定NPO法人Dialogue for People代表)

テ 共に生きるとは何か ―難民の声、

家族の歴史から考えた多様性

費 無料

会 豊橋別院

☎ 0532152150833

「声明講習会」

日 10月9日(木) 13時～

講 鬼頭 武志氏(本廟部堂衆)

テ 寺院における荘厳作法

費 無料

持 間衣、輪袈裟、念珠、『真宗の儀式』、

『真宗大谷派 儀式軌範』

会 豊橋別院

☎ 0532152150833

組、有志で公開学習会の案内掲載希望の場合は教務所へお問い合わせください。『MAST』は年3回の発行予定です。紙面の都合で、掲載できない場合があります。

※内容は変更となる場合がございます。詳細は教区・団体については教務所、地域については各別院までお問合せください。

『M A S T』表紙写真募集のお知らせ

『M A S T』は年3回、1・5・9月に発行しており、表紙写真を教区の皆さまから募集しております。

次号第15号は1月の発行となります。

写真撮影が趣味の方、ぜひお持ちの写真をご提供ください。お待ちしております。

※都合上、提供いただいた写真を使用できない場合もございます。

【提供方法】

岡崎教務所のメールアドレス:

okazaki@higashihonganji.or.jp

宛てに写真のデータを添付してご送付ください。



これまでの表紙写真



岡崎教区HPリニューアルについて

このたび、岡崎教区HPをリニューアルいたしました。スマホ画面への対応、各種申請書等のダウンロードなど、より利用しやすいHPとなりました。教区の様々な情報も掲載していきますので、ぜひご活用ください。ページ一番下のQRコードよりHPに移動できます。

編集後記

時代に取り残されないよう、画像・動画・音楽など、色々な生成AIを試しているのですが、高い品質に驚かされるばかりです。どれだけ人間が努力してもAIに敵わない時代がやってくるのでしょうか。しかし利便さの一方で、無機質な創作物が世に溢れることに疑問を感じます。どうすればAIには真似できない人の温かみが伝わるのか。『M A S T』作成にあたり、課題を突きつけられているように感じています。

(編集:べつぷ)

法語

地獄はどこにもないのだ、
ない地獄を人間が作って、
そこに落ち込んでもがいている

正親 含英

おおぎ がんえい
正親 含英

1895年(明治28年)～1969年(昭和44年)兵庫県姫路市に生まれる。大谷大学教授、学長を歴任。学長退任後、名誉教授となる。

※この法語は『日めくり法語 一語一遇』(東本願寺出版)より抜粋しました。

見つけよう、生まれた意義と生きる喜び
～生活の中心に南無阿彌陀仏を～

岡崎教区教化テーマ

みなさまの声を聞かせください

『M A S T』に対するご意見、ご要望をお寄せください。下記メールアドレスにて受け付けております。より多くの方に、手に取っていただける広報誌にするためにみなさまのご協力をお願いします。岡崎教務所 (M A S T担当) okazaki@higashihonganji.or.jp

岡崎教務所 ☎ 0564-22-2136



岡崎教区ホームページ



岡崎教区facebook



岡崎教区 LINE